



ウガンダのムベンデ県にてレモングラスの栽培拡大と環境教育による環境保全事業

活動 3.8 レモングラスの栽培拡大におけるレモングラスの収穫・運搬

No	日時	場所
1	2018年6月9日	カバニィ
2	2018年10月1日	キソンプワ
3	2019年1月10日	カバニィ
4	2019年3月14日	キソンプワ

導入:

SORAK が支援しているレモングラス農家（女性 4 名、男性 5 名、青少年 10 名）が栽培したレモングラスの収集について報告する。この活動は雨季に 60 日毎に繰り返し実施した。

活動の目的:

レモングラスのエッセンシャルオイル生産に用いるレモングラス原料が継続的に供給され、また農家が収穫したレモングラスを SORAK が買い取ることで、農家の生活資金を創出することを目的としている。また、土地をレモングラスが覆えば起伏のある台地で頻繁に起こる土壌侵食を防ぐことができるという点で、結果的に環境保全にも貢献することである。

参加者:

SORAK スタッフ 5 名、その他労働者 4 名が、農家コミュニティに属する各農家を直接訪問し、レモングラスを収集した。チバリンガ準群より 5 戸、ナビンゴラ準群より 5 戸、チュニ準群より 9 戸、またその他 SORAK が栽培支援しているするコミュニティから収集した。

ファシリテーター:

SORAK スタッフ 2 名（モトヴ・バジリオ、マファビ・マーティン）による主導・監督の下、レモングラスの積み下ろし作業を行なうトラック運転手、青少年（2 名）と共にレモングラスの収集活動を実施した。

活動内容:

活動内容は以下である

1. 収集の日程調整。農家に直接電話し収穫時期を知らせると同時に収穫及びトラックの到着時期を予め知らせておく。
2. 収集用のトラックとドライバーの借上げ。
3. 農家に収穫日の合意と約束の取り付け。60 日毎に農家 19 戸から収穫した。

4. レモングラス収集に向けて村へ移動
5. 収穫したレモングラスをトラックへ積み SORAK の蒸留場まで運搬。この期間中にレモングラス 48 トンを収集できた。
6. 倉庫内にレモングラスを広げ蒸留前の 4-7 日程乾燥。SORAK スタッフ及び一時雇用者により蒸留作業を実施。



運搬したレモングラスの荷下ろし作業



草の乾燥のため麻袋を用いて草を広げている



運搬したレモングラスの山



蒸留の行程中、SORAK 代表が空になった蒸留窯を監視している

活動の成果:

レモングラスの収集活動を通し以下の成果が出た。

1. 農家に収入創出の機会を提供した。各農家は平均 1500k のレモングラスを生産し一回の収穫でおおよそ 30 万ウガンダシリングを稼いだ。SORAK は計測の上、1 キロの原料につき 200 シリングを支払う。

2. 農家は収入を得るため積極的にレモングラスの栽培を行ったが、同時に土壌侵食を防ぐ事にも繋がった。また、土壌侵食対策として更に多くの農家が小規模なレモングラス栽培を始めた。
3. 石鹸やキャンドル作り、及び販売用のエッセンシャルオイルを生産した。
60日毎に12トンのレモングラスを収穫し、毎回8リットルのエッセンシャルオイルを生産することに成功したが、更に価値を高めるまで、販売せず保存している。

主な課題:

1. 雨季に道路が通行止めになること。
2. 乾季が長期化し予定より少ない量しか産出できない農家があった。
3. 収穫可能なレモングラスが減少し、予定していた量のレモングラスが収集できなかった。
この半年間で60日おきに収集できたのは10~12トンのみであり期待していた20トンには及ばなかった。

提案:

1. 農作に興味を示している女性や若者がいるため、レモングラス栽培を更に多くの人に奨励する。レモングラスは庭を飾る植物として個人の敷地内に植えることも可能である
2. 環境保全に繋がる他の様々な方法を適用させていくようコミュニティを奨励する。
その中でもジャックフルーツ、マンゴー等といったフルーツの木やユーカリの木を植える植樹活動は非常に重要であり、環境保全の一環になると同時にコミュニティの収入向上や食料のニーズを満たすことができる。

結論:

農家からレモングラスを収集することは SORAK メンバーとコミュニティとの継続的な連携の強化につながった。しかし天候の悪化や気候の不安定さから土が乾燥し生産量が減少、結果として農家の意欲が低下するという課題に直面している。様々なアプローチを多面的に融合することは環境保全においてより効果的かつ持続的なので、今後は植樹やブリケットの生産等を通じた環境保全についての策にも力を入れていく。